

# 2012年度 東山梨教育協議会研究の概要

研究推進委員長 堀井 勝彦

## I はじめに

東山梨教育協議会は、東山梨地域全体の教育振興を願って、1964年(昭和39年)に校長会・教頭会・教連の三者が、県教委、各地教委の協力により設立され、48年が経過しようとしている。これまでの活動の中で私たちは「平和を守り、真実を貫く民主教育の確立」のスローガンのもと、平和で民主的な社会を作るための教育研究・実践が重要であることを確認し、とりくんできた。また、管理職、教諭、専門職員が協同して組織研究を進め、東山梨地域の学校教育の向上、教職員個人の質的な向上、教職員相互の強固なネットワークの構築をはかり、今に至っている。

さて2011年3月に起こった東日本大震災は、2年以上が経過した今もなお、被災地をはじめとする多くの地域の人々の生活、そして教育現場にも大きな影響を及ぼしている。県内には、何百人もの被災したご家族、そしてその子どもたちが移住、転入してきており、新たな環境の中で、新たな思いをもち、日々の生活、そして学校生活を送っている。私たち教職員は、そのような境遇の子どもたちが、新たな夢や希望に向かって進んでいくために、思いを共有し、寄り添っていけるよう心がけていきたいものである。

また、子どもたちや学校教育を取りまく状況をみても、やはり多くの課題が山積している。今年度は、ゆとり教育路線を転換した新しい学習指導要領が、昨年度の小学校に続き、中学校でも施行され完全実施となった。学校現場では、増加した授業時数や学習内容等への対応に追われ、子どもたちも1日の学習時間の増加、学習内容の多さや難解さなどにより、ゆとり感をなくし、教職員のとまどいと保護者の不安をも助長する結果となっている。また、実施6年目となる全国学力学習状況調査では、抽出方式による改善も期待されたが、今年度は理科の追加などにより検査時間も増え、結果的に各校や各先生方に対応が任され、現場にしわ寄せが行く状況となり、さらに来年度からは全国悉皆調査が再開されることとなった。

もちろん、時代の変遷と共に教育活動も変化していかざるを得ないわけだが、私たちは、教育の不易と流行をしっかりと捉えた教育研究を行っていかなければならない。

今後子どもたちを中心に据えた、学校・家庭・地域に根ざした「心豊かなふれあいのある教育」をめざしていきたいものである。

## II 研究の推進について

### 1 研究の目標

基本目標 「平和を守り真実を貫く民主教育の確立」

「国民の教育権の確立」

統一テーマ 「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」

### 2 研究推進の基本的方針

- (1) 教協48年目の歴史的な重みや意義を重視し、東山梨の抱える今日的な教育課題解決のための研究を推進する。
- (2) 教育課程(カリキュラム)の自主創造的な編成を強化推進する。
- (3) 各学校の校内研究と教協研究との有機的結び付きとその充実を図る。
- (4) 保護者・地域住民との連携を強化する。

(5) 組織研究の意義を理解し充実発展させるために、積極的な参加意識の高揚と組織的参加体制の確立を図る。

(6) 平和・人権・環境教育を積極的に推進し、生命の尊さや平和の大切さの意識高揚を図る。

### 3 研究の組織づくり

研究の基底は校内研究にあるとの認識に立ち、課題の本質に迫り、解決の方法・内容を考えたり、専門的力量を高める教育研究部会と、同じ地域に勤めるものが課題を共有し、連携をはかりながらその解決策を探るブロック交流研究会、さらに特別委員会を設け教協研究を推進した。以下、具体的に掲げる。

#### (1) 教育研究部会

共通テーマ；「人間性豊かな子どもの育成と教科教育課程の自主創造的な編成をめざし、教育の本質を実践的に追究する。」

	部 会 名		部 長	学校名	テーマ
1	日本語教育	小学校	武井美奈子	加納岩小	豊かな表現力の育成 ～伝えあう力を高める指導の研究～
		中学校	平山 直樹	松里中	思考力・判断力・表現力を育む日本語指導 ～言語活動の充実を通して～
2	外国語教育		大村 隆	勝沼中	基礎学力をつけるための指導工夫 ～意欲的に英語活動を取り組む児童・生徒の育成を目指して～
3	社会科教育	小学校	畠山 忠	八幡小	科学的社会認識を育てる授業研究
		中学校	立川 慶樹	勝沼中	科学的社会認識を育てる授業研究 ～身近な資料を用いた授業研究～
4	算数・ 数学科教育	算 数	小池 美樹	日下部小	楽しく学び、高め合う算数学習をめざして
		数 学	内田 貴之	山梨南中	わかる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～
5	理科教育	小学校	中村 裕司	玉宮小	楽しく学び 自然を豊かにとらえる理科授業をどのように進めるか
		中学校	坂本 伸也	山梨南中	わかる理科授業の創造 ～新学習指導要領に基づくカリキュラムの研究～
6	音楽科教育		平塚すみり	三富小	わたしの音楽 みんなで音楽 ～音楽を形づくっている要素を感受し自ら広げる音楽の世界～
7	美術・図工科教育		小澤 朋子	山梨南中	一人一人の力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか
8	技術科教育		長久保 学	塩山北中	ものづくりを通して生きる力を育てる指導研究 ～生物育成に関する題材の工夫～
9	家庭科教育		向山 栄子	山梨北中	感じとり体験して、自立的に生きる基礎を培う授業のあり方
10	保健体育科教育 (小学校)		小宮山公仁	東雲小	教材の本質をふまえた体育指導のあり方 ～走・跳の運動(遊び)、陸上運動を通して～
11	保健体育科教育 (中学校)		平山 剛	笛川中	体育分野における授業の効果的な指導法 ～指導形態や場の工夫～
12	保健教育		保坂 郁江	牧丘二小	自らの健康づくりに意欲的にとりくむ子どもをどう育てるか

13	生活科教育	高野 育愛	日下部小	子どもが生き生きと学ぶ生活科
14	自治的諸活動	志村 克人	三富小	一人ひとりの自立をめざした学級づくり
15	生活指導	加藤 紀子	塩山中	すべての子どもへの心理的、教育的援助のあり方
16	特別支援教育	八巻 恵子	祝小	一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方 ～自立をふまえて(どの子ども共に生き共に育つ)～
17	福祉教育	三森 明美	神金小	学校教育における福祉教育のあり方をさぐる
18	食教育	五味 秋津	笛川中	食教育を考える ～子どもたちのより良い食習慣づくり～
19	平和・人権教育と国際連帯	三森 公仁	塩山南小	平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして
20	環境教育	深澤 真人	後屋敷小	「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対し主体的に関わることのできる子どもの育成～
21	情報社会と教育・文化活動	野尻 政彦	三富小	情報活用能力を高める研究
22	進路教育	青柳 俊雄	塩山北小	一人ひとりにあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか ～小・中における授業実践を通して～
23	情緒・地域性との連携	飯室 美華	神金小	開かれた学校づくりをめざして
24	教育条件整備	杉原 聡子	牧丘一小	豊かな教育を子どもたちに
25	カリキュラムづくりと総合学習	小野 紀男	大藤小	豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成 ～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～
26	教育評価	高野恵美子	祝小	生きる力を育む評価のあり方

(2) ブロック交流研究部会

共通テーマ；「地域が抱える教育課題を共有し・解決に向けた交流を行い、同一地域の小中連携や小中の系統的な教育のあり方を追究する。」

ブロック名	ブロック長	ブロックテーマ
山梨 支 会	山梨南 ブロック 中村 悦美 山梨小	○情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る
	山梨北 ブロック 飯島 裕明 後屋敷小	○小中の連携を深めることにより、山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす
	笛川 ブロック 酒井 幸政 笛川中	○小・中学校の連携を深め、地域の様子や子どもたちの実態を知り、指導に生かしていこう
甲 州 支 会	塩山 ブロック 伊藤 淳司 塩山南小	○小中学校の交流を図る中で、地域の様子や子どもたちの様子を知り、連携して塩山中学校区の子どもたちを育てていこう
	塩山北 ブロック 金井 京子 大藤小	○小中の連携をはかり塩山北中学校区の子どもたちを育てていこう
	松里 ブロック 小河真由美 松里小	○同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために小・中・地域の交流と連携を深めよう
	勝沼 ブロック 依田 久幸 勝沼中	○「確かな学力」育成プロジェクトとの連携を図りながら、同じ地域に生活する児童・生徒に対する系統的な教育の在り方を考える
	大和 ブロック 青木 恵 大和小	○小中の連携を深め、児童生徒の教育課題についてともに考えよう

### (3) 特別委員会

- ア 教育環境研究特別委員会（委員長 川崎敏朗 委員…校長会・教頭会・教連・事務職）
- イ 児童生徒連絡協議会（会長 笛川中学校生徒会会長 樋田洋斗 顧問教員 辻 由樹）

### 4 部会運営

本年度は、教育研究部会 26 部会、ブロック交流研究会 8 部会の成立をみた。教育研究部会は年間 10 回、ブロック交流研究会は年間 3 回設定し研究活動を行った。年間計画等、しっかりと見通しの上にならざる研究活動を更に推進していくことが重要である。

### 5 研究日と研究集会

毎週水曜日を研究日とし、地区教協研究日以外は校内研究にあてる。厳に校内行事等を入れずに研究時間を確保するようにしたい。春季・秋季研究集会は 32 校の教職員が一堂に会し開催された。（冬季は天候不順のため部長校開催）

### 6 研究推進地区

山梨支会を研究推進地区とし、山梨南中学校を会場に各種教研活動が行われた。

### 7 教育講演会

8月6日（月）甲州市 ぶどうの丘 イベントホール

講師 南アルプス市立 櫛形中学校 教諭 上田 直人 先生

演題 信じて走れ!! 櫛形中 ～想いを繋ぎ 襷をつないだ日本一～

## III 今後の課題

新学習指導要領の本格実施への対応と同時に、特別支援、食教育、キャリア教育、外国語教育など時代のニーズや要請にあった教育活動を進めていく必要に迫られている。このような状況にあつて私たちは、幅広い視野を持ち互いの力量を高めるべく、研究、実践をしてきた。教育問題が多岐にわたる今日、目の前の子どもたちにとって本当に必要とされる教育は何かをもう一度見つめ直し、組織研究の意義を会員各自が自覚する中で東山教育がさらに充実、発展するよう努めていきたい。

### 〈東山梨教育協議会役員〉

役職名	氏 名
会 長	武井茂光(山梨南中)
副会長	榊原俊二(山梨小) 中村英彦(祝小)
事務局	堀井勝彦(勝沼小) [研究推進委員長・事務局長] 梶原 貴(教育会館) [事務局次長]
	武井茂光(山梨南中) 内藤 理(山梨小) 雨宮 貴(岩手小) 平井 隆(塩山中) 中村精志(大和小)
	榊原俊二(山梨小) 八巻 登(塩山南小) 奥山邦次(山梨北中) 中村達也(大藤小) 広瀬真次(松里中)
	中村英彦(祝小) 古屋雅章(加納岩小) 堀井勝彦(勝沼小) 雨宮 正(塩山北小) 梶原 貴(教育会館)
会 計	雨宮 正(塩山北小)
会計査	近藤英夫(勝沼小) 精進重人(日川小) 小串吾郎(松里中)